

家庭教育学級新聞

発行 山武市教育委員会生涯学習課

山武市殿台 279-1

TEL 0475-80-1456 FAX 0475-80-1400

Email: shogaigakushu@city.sammu.lg.jp

なんごう認定こども園 家庭教育学級



熱心にメモを取りながら話を聞く保護者のみなさん



H22. 10. 18 (月)



裏面に続く

幼児期の子育ては、とにかく「かわいがること」と話し、「猫っ可愛がり」を勧める野村先生

子育て講演

「幼児期における親の役割」

講師 野村 俊 先生



今回ご紹介するのは、なんごう認定こども園の家庭教育学級です。小中学校の教師として現役時代を過ごし、退職後は幼稚園長や高校のスクールカウンセラーを歴任した野村俊先生をお迎えして、お話を伺いました。先生のこれまでの経験と温かい人柄から出てくるお話に、参加した保護者のみなさんは大きくうなづいていました。

リレーコラム第3回 我が家の子育て

山武市教育委員会教育部
部長 伊藤 博章



子育てって楽しいですよ。だって、三十数年前のもう一人の自分を見ているように笑えます。

私には二人の息子がおり、今二人とも大学生ですが、親の勝手で性格も大分違ってくるようです。勉強でも遊びでも一方は手間ひま掛け、もう一方は自主性に任せてみました。結果は想定どおりで、例えば私への呼び方一つとっても、兄は「おとうさん」弟は「トッチャン」となりました。

私が子育てで心掛けたのは、子どもと関わる時間をより多く持つことと、父親としての役割を行使することでした。子どもを持つた幸せを実感する上でも家族旅行を計画的に実施し、海外にも足を伸ばしましたが、費用や混雑の関係で、何度か平日に学校を休ませて出かけたこともありました。ところが、小学校も高学年になると「学校休むのは、まずいよ」と言うようになり、苦笑いさせられたことが思い出されます。いつでも出来るのではなく、その時期は比較的短いのです。

その一方で、親族の不幸に際しては学校を休ませて参列させました。何が重要なのか、悲しみを感ずる心と私なりの価値観を解ってほしかったのです。

それから我が家は農家ですが、私がそれなりに育てられたように、子どもにも小さい時から圃場に連れて行き手伝わせるようにしました。お金は便利で欲しい物を手に入れる有効な手段ですが、それとは逆に生産とは何か、また、助け合いの心を少しでも解って欲しかったのです。結果、この目的の達成度はともかく、少なくとも今では農作業において貴重な戦力となっているのは事実です。

失策もあります。その一番手はテレビゲーム事件です。私の方針で、時間の浪費でもあり我慢させることにしていました。ところが、何処にでもいる悪い叔父さん、子どもにとっては素晴らしい叔父さんが、数万円のゲーム機をプレゼントしてしまったのです。こうなると、もうコントロール不能に陥ったのは言うまでもありません。いくら頑固でも外部からの侵略に弱いことを思い知らされました。

中学生にもなると父親の存在感は増してきます。小さい事ですが、通学用自転車のパンク修理をしたところ「父さんでも直せ

※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。

るんだ」と一目置く視線を感じました。それ以来二人で作業すること、今では子ども自ら修理することが可能となりました。

この頃は反抗期でもあり、言って従わせるよりも実際にやって見せた方が効果的だと思います。

ここで職業柄からのお話があります。教師への反発がこの頃から始まりますが、決してお子さんの前では悪口を言わないでください。お子さんに悪影響を与える要因だからです。教師だって人間ですから、お子さんの言うとおりかもしれません。しかし、教師は皆の成長を願って指導に当たっています。人を尊敬することが人格を形成する上で重要な要素だと私は思います。部活動の問題であれば、ボランティアで指導に当たっていることなどを話してみてください。その方が余程効果的です。

高校生にもなると違った問題が浮上します。妻と息子の会話です。「昼食はこれを食べ、着替えはこれで、帰りの電車代は・・・」「うるさいな、ほっといてくれよ」「生意気言うな、一人で何も出来ないくせに」「過干渉というか、子離れの問題です。私にも思い当たる節がいくつもありません。今も解決していませんが、親離れを促しながら、上手に子離れしたいものです。

私の子育ては、定年と共に終わることになっていますが、今思うと、自分自身の成長にも役立つ気がします。子どもの見本になるよう少しは努力しましたし、私に代わって色々頑張ってもらったことや、嬉しいのは次にバトンを渡せる糧なのです。彼らの成長が自分の年齢を意識することができました。悩んだ分だけ、それぞれが成長したのではないのでしょうか。

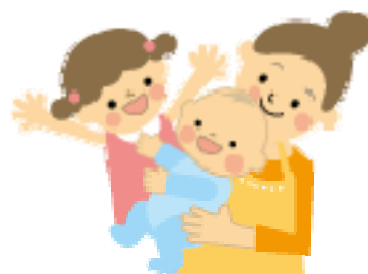
子育てと言っても確たる自信がない中で、結局は自分の両親に育てられた、その物まねが基本であった気がします。社会問題となっている虐待もその親は被害者であったことが多くと聞いています。先ほどお願いしましたが、単にその事の真実にこだわるのではなく、良い方向に改善することを優先すれば、社会ももっと明るくなるでしょう。

保護者の皆様それぞれが、お子さんに自信を持たせる手法を考えていただきたいと思います。最後に、教育行政へのご理解・ご協力をお願いしまして結びといたします。

この講演会は、なるべく多くの保護者のみなさまに参加いただくため、ベコちゃんクラブ終了後に設定され、三十名以上の参加がありました。
参加した皆さんからは「役立った」「今までの子育てを振り返り、反省した」「子育てのやり方を変えてみようと思った」など、たくさんさんの感想が寄せられました。



熱心に語る野村先生



野村先生の講演より

- ◆ 子ども自身が「かわいがられているな」と思えるようにする
- ◆ 兄弟におやつをあげる時、上の子に一番大きいおやつをあげると、思いやりが育って下の子を可愛がり面倒をみるようになる
- ◆ 一緒に喜んだり悲しんだり「心のスキンシップ」も大切に
- ◆ 「アタッチメント・ペアレンティング」って知っていますか？

アメリカの小児科医が提唱する赤ちゃんの育児法

発育が早い、記憶力が良い、平衡感覚が育つ、あまり泣かないのでストレスホルモンができない、安心していられるので、早く社会性が育つなどいいことだらけの方法です。

どうするかというと、赤ちゃんとの密着・・・たくさん抱っこすること・・・だそうです。参考にしてね。

平成22年度 家庭教育学級合同開級式講演会報告

今年度の合同開級式講演会が、去る5月26日（水）午前10時からのぎくプラザで開催されました。

講師は友懇塾理事長の井内清満先生で、友懇塾の活動内容を伝えたテレビ番組のビデオなども紹介しながら先生自身が非行少年の立ち直りに尽力するなかから得たどう子育てすることが大切なのかを、事例を紹介しながらわかりやすく伝えていただきました。

講演する井内先生



先生の講演の中から「親として子どもにしてあげられること」をご紹介します。

- ① 子ども部屋は居場所ではない→逃げ場所である
- ② 叱ることはできても→ほめることができない（甘やかすこととは違う）
- ③ 子どもの前で子どもが原因の「夫婦げんか」は厳禁
- ④ 毎日の食事は、お母さんの手作りが基本→冷凍食品はダメ
- ⑤ 規範意識を徹底して教えられるか→あなたの規範意識は万全ですか？

いかがですか？日々の子育てを振り返ってみませんか。

予 告



平成22年度 第2回家庭教育学級講演会

日時 平成23年1月13日（木）午前10時から12時
場所 山武市成東文化会館のぎくプラザホール
講師 日下 弘美 先生（日下医院ケースワーカー）
演題 「子どものしつけと親子関係のとり方」

今年度第2回の講演会の講師をお願いした日下先生は長年東京都職員として、精神疾患、人格障害などの更生に携わり、その後児童相談所の児童福祉司として多くの虐待事例に向き合ってきました。これまでの経験から、親子関係・家族関係や普段の子育てにすぐに役立つしつけについてなどを、乳幼児から中学生までをお持ちの保護者向けに講演いただきますので、ぜひお越しください。

「～しちゃダメ」って言っていませんか

「自分のことは自分でやれ」って言っていませんか？

興味がある方、お待ちしております！



誰も見ていなくてもきちんとできる・・・どうしたらそんな子に育つの？

冬も間近になり、今年度最初の家庭教育学級新聞をようやく発行することができました。

今年は、37年ぶりの国体が千葉県で開催されました。山武市ではデモンストレーションとしてオリエンテーリングが行われ多くの人々が参加しました。山武市在住の選手の活躍もあり、みなさんの家庭でも国体の話題が何度か出たのではないのでしょうか。スポーツで活躍する選手達を見て自分もがんばろうと思った子ども達もいるのではないのでしょうか。家族が、一番身近な応援団としてがんばる子どもを応援してあげたいですね。

中学では、制度が変更されてはじめての高校入試が近付いています。新しい制度で子ども達だけでなく、受験生を抱える家族も不安になってしまうところですが、いつでも応援してるよという気持ちで温かく見守ってあげたいものです。

親が不安な気持ちでいると子どもにも不安が伝わってしまいます。希望に光輝く春を迎えるために親子でがんばりましょう。

担当 加瀬

